

農業実践に基づく農家への新たな自社製品等の提案と 玄米ペースト技術による 6 次産業化 (株式会社中九州クボタ)

＜法人の概要＞

所在地：熊本県大津町

設 立：農業生産法人アグリ中九州（平成 25 年 1 月）

資本金：50 万円

売上高：1,400 万円（農業 1,000 万円、その他 400 万円）（平成 26 年）

役 員：5 名（うち農業従事者 3 名）

従業員数：3 名（パート 5 名）

経営面積：1.5ha

営農作物：トマト、白菜、キャベツ、ほうれん草等

農業開始時期：平成 25 年

※ そのほか、(株)中九州クボタとして参入しており、また、六次産業化の取組として(株)熊本玄米研究所（6 次産業化）を設立

＜農業参入に至った経緯・動機＞

熊本、大分県において、主として農業機械を販売する株式会社中九州クボタ（クボタグループ）は、本社のある熊本県大津町において、平成 22 年に自ら農業参入し、さらに平成 25 年には農業生産法人アグリ中九州を設立、また、株式会社熊本玄米研究所を設立して 6 次産業化の取組も併せて行っている。

中九州クボタでは、グループの農機具・資材等を使用して農業を実践することにより、農家側のスタンスに立った農機具・資材等の新たな提案、また、玄米ペースト技術を用いた 6 次産業化による原料調達により、地域農家の支援を目的として様々な取組を実施している。

＜農業参入することを決めてから営農開始まで＞

平成 25 年に熊本・大分県の中心の地である大津町で、農業参入したが、地域の活性化、また、大津町は土地利用型農業（甘藷等）が盛んな地域であり、施設園芸や営農型ソーラーの活用による農業等の提案を行うとのコンセプトから大津町農業委員会等に相談し、地元農家等の農地と併せて 1.5ha の農地を取得することができた。

さらに、米粉技術より工程・コスト減である玄米ペースト技術に着目し、付加価値ある玄米パンの製造・販売を行う直売所建設のために 6 次化ファンドの活用検討を行った。

＜営農開始から現在まで＞

施設園芸の取組としては、自社グループの「大型無柱ハウス」（ハウス内の中柱を無くし、レイアウトが自在で広い栽培面積を確保）の実践として、①高品質・高糖度トマト栽培、②多収益・一定品質確保トマト栽培と２種のアプローチにより栽培を行い、農家への提案のため、栽培体系・技術、収益やコスト削減手法の確立を目指している。

また、営農型ソーラーの取組は、約 36 a の面積に対して地上より 3.0m の高さで 150kW 相当のソーラーパネルを設置し、その下部において、白菜、キャベツ等の栽培を実施している。パネルは遮光率 30%未満の設計であるが、平成 26 年度の営農結果から通常栽培と比べ品質が大きく低下した事実はなく、今後も継続して品目等の検証を実施していきたいと考えている。

また、(株)熊本玄米研究所では 6 次産業化（玄米ペースト）の取組として、阿蘇方面に向かう交通量の多い国道 57 号に面した「玄氣堂」で玄米パンの製造・販売を行っており、地元住民はもとより県内外からも好評である。

＜今後の農業経営の展開方向＞

施設園芸や営農型ソーラーの取組面積は今以上に拡大させることは考えていないが、今後は作業効率の向上等により収益面についても考えていきたいと考える。

また、6 次産業化については、玄米ペーストを増産することにより、パン以外の商品開発や販路先を小売店や企業等の給食への提供等の拡大を図っていくこととしている。

＜今後農業に参入しようとする法人に対するアドバイスや行政への要望事項など＞
特にありません。



大型無柱ハウス



大型無柱ハウス（内部）